

7-2

ショートステイ稼働率向上への取り組み

延べ利用日数 629 日増を実現(専用 10 床+空床5床)

意識改革

実践

特別養護老人ホーム グリーンハイム荒川

介護リーダー 東海林 幸奈(SS 担当)

介護主任 橋立 弥生(前 SS 担当)

東京都荒川区南千住6-36-5

TEL : 03-3802-7561

E-mail : greenhaimu@seifuukai.or.jp

FAX : 03-3802-7564

URL : http://www.seifuukai.or.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

H 元年 4 月、区内初の特養として開設(定員 100 名・ショート10名・デイ併設)。
H12 年 4 月、介護保険制度施行に合わせて居宅介護支援事業所を併設。下町の住
宅街に在り、地元町会、隣接の保育園、都立高校等、地域との交流も盛んである。

〈現状の把握〉

○進まぬショートステイの空床利用

(過去 3 年間の稼働率)

15 年度 特養→92.7% /SS→119.5%

16 年度 特養→92.6% /SS→115.8%

17 年度 特養→93.5% /SS→115.7%

入居者の重度化による入院者増で特養の稼働率が上が
らないという傾向が強くなる中、空床利用を積極的に
行う必要があったが、現場からは「ショートは記録が
多く大変」等の声が聞かれ空床利用が進まない現状が
あった。

〈空床の積極利用で全体稼働率の向上を目指す〉

○特養の空床を積極活用し、ショートステイで全体の稼
働率を上げなければ安定した経営が出来ないという危
機意識からショートステイの稼働率向上に向けた取り
組みが始まった。

〈具体的な取り組み〉

①職員の意識の向上

OSS 担当が特養会議・ユニット会議等へ参加して現場と
積極的に意見交換を行うこととした。

○効果的、効率的なショートの受け入れを図るため新人
職員に対して SS 担当がショート業務にかかる研修を
行うこととした。

○外部講師を招き在宅サービスの重要性についての研修
を行った。

②ケアマネジャーとの連携

○可能な限りの緊急ショートステイの受け入れ。

○区内の居宅介護支援事業者との懇談会の実施。

③法人内他施設との連携

○月に 1 回、法人内ショートステイ連絡会(5 事業所の担
当者会議)を行い、稼働率向上に向けた意見交換を行った。

○グリーンハイムが満床だった場合に区外の法人内他施
設の空き状況を確認し、利用可能な場合はそちらを利用
してもらうよう便宜を図った。

④利用者・家族へのアプローチ

○満足度アンケートの実施。

○新規ご利用者やしばらく利用のなかった利用者・家族
向けに分かりやすい「ショートステイのしおり」を作
成した。

〈取り組みの成果と評価〉

○現場職員とのコミュニケーションを密に取り、それぞ
れのご利用者やご家族の生活背景を理解してもらうと
ともにショートステイに何を期待しているのかをキチ
ンと理解してもらうことで、ショートというサービスの
重要性をそれぞれの職員が認識するようになった。

→職員の意識向上に繋がった。

○ベッドが空いているのであれば緊急的な受け入れも、
他の施設で断られてしまった利用者も受け入れていく
という実績をすることで「グリーンハイムなら」と言
うケアマネジャーの信頼を得る事ができた。

→新規のご利用者の獲得に繋がった。

○家族・利用者に向けたアンケートを行いニーズの把握
を行った。「利用中もっとお風呂に入れてもらいたい」
「毎日お風呂に入りたい」との入浴に対する意見がと
ても多かった。その意見を受け、利用前に入浴回数に
関して意見を伺いできるだけ要望に応えることとし
た。

→利用中のQOLの向上に繋がるとともに、「またグリー
ンハイムに行きたい」「またお願いしたい」と、リピー
ターの確保に繋がった。

○結果として平均稼働率を 115.7%から 132.9%に
上げる事ができた。

〈今後の課題〉

○利用者の利用中のQOLの確保

○リスクマネジメントの充実

○職員のさらなる意識の向上